

## MR. EVINE'S QUESTIONS & ANSWERS



ここでは、本書『Mr.Evineの英語塾 コア英文法』を存分に活用し、本書で学んだコア英文法の知識をアウトプットしていただくために、Evineの考えをQ & Aとしてまとめました。

### Q.1

**この本の「コア英文法」を修了すればどうなりますか？**

本書は中学英語、高校英語といった学年の意識はありませんが、単元としては中学英語をベースとし、仮定法から関係副詞まで幅広く扱っています。

中高生が学習する学校英語、日常英会話やビジネス英語などシーンが問われない全ての核(コア)となる必須英文法を厳選し、解説しています。一般の語学書で重要視されているようなものでも、切り捨てても支障がない文法知識や構文はあえて扱っていません。

皆さんの英語力のベースになるのが本書です。コア英文法を習得し、それを道具としながら経験によって皆さんそれぞれが必要とする英語力に上げていきましょう。

### Q.2

**1ヶ月でこの本を終えることはできますか？**

1から100まで盛り込んでいるわけではなく、コア英文法に厳選して、解説しているため、量的には1ヶ月で終わることは物理的に可能です。ただし、本当に知識を使える状態にするためには、本書を1周だけで終わりにせず、最低3周は繰り返しましょう。

1周目ではできない発見が2周目、3周目で必ず発見できます。と

にかく1周目はチャチャッと読んでしまうことを優先すると良いかと思えます。

### Q.3

#### どんなふうに1日の学習を進めていけばいいですか？

まず各Dayの流れは次のようになっています。

1. 「日本人のよくあるNG発信！」…クイズ形式でそのDayで押さえるべき重要なコンセプトをイメージします。学習目標をしっかりと把握しましょう。
2. 「実用的な例文」…重要ポイントの解説には必要に応じて、例文で活用事例を示しています。どの場面で、どんな目的でこの英文法を使用しているのかを例文でイメージします。
3. 「クイズ」「違いをチェック！」…解説の合間には、重要コンセプトを理解して、運用力につなげるために、例題や紛らわしい英文の比較があります。
4. 「整理整頓クイズ」…各Dayの終わりには、ここだけは押さえておきたい重要ポイントの理解度を確認する演習があります。
5. 「整理整頓クイズ 答え合わせ」…各問題の出題者の意図をイメージしながら丁寧に答え合わせをしましょう。

全体の構成は第1章から第3章までをテーマ別に分けていますが、基本的にはDay 1からDay 30に向けて順番に進めてください。

各Dayを1日で終わらせる必要はありません。例えば、1日目は本編の通読、2日目に軽く本編を再度軽く読み流し、最後の「整理整頓クイズ」を解いて、本編の復習をする、といった流れでも構いません。

ただ、3ヶ月～6ヶ月程度は、継続して「毎日」10分でも本書に関わることをお願いしたいです。

また、多くの書籍では、著者が独自に重要な言葉を太字表記してありますが、本書の解説では、基本的に太字表記はあえてしていません。

読者の皆さんにとって、必要だと思われる箇所を自由にチェックしていただくためです。

また、「整理整頓クイズ」「SHUFFLEクイズ」「PROFICIENCY TEST」は、1周目、2周目はなるべくノートを活用し、書き込まないようにしましょう。3周目でガシガシ、仕上げとして書き込んでいきましょう。繰り返し、何度も解くことが重要です。

## Q.4

### この本を最後まで頑張れるコツはありますか？

ご存知の通り、語学はそう簡単に身につくものではありません。「効率のよさ」や「楽な学習法」、現実にはそんなものはありません。

ですが、英語学習に真面目すぎるのも絶対にNGです。

最後まで何度も何度も繰り返すことが肝で、そのためにはある意味「前向きな適当さ」がポイントになります。

そこで、各Dayの解説に対する理解度や演習の正答率を1周目60%、2周目80%、3周目100%のようなイメージで、1周目から完璧を目指さないのがコツです。最初から少なくとも3周する想定で学習計画を立ててください。もちろん1回で理解できるに越したことはありませんが、それでも繰り返す方がやはり定着します。途中でやめてしまわず「繰り返す」ことが肝です。

理解できない場合の柔軟さが大切です。

視野が広がればその時に理解できなかったことも自然と理解が深まったりすることがあります。本書のコア英文法も同じです。何をEvineは言っているんだ、と理解に苦しみながらも、他のDayを進めていく中で、「あ、そういうことか」と英文法の神様が降りてくることがあるんです。

とにかく最後まで1周をチャチャッと読んでしまってください。2周目と3周目は1周目比べるとストレス激減しているはずですよ。

## Q.5

わからないことが出てくると先に進めないのです。

何においても間違いを気にしない、恐れないことです。

小中高と学校で間違えたら「減点」される採点方式に慣れている我々はどうしても間違えることを気にしてしまいます。

外国人に話しかける前に、事前に粗相のないように正しい英文を少しでもないこーでもないと組み立ててから話し始める日本人も多いです。たいてい、英文を考えているうちにネイティブたちは別の話題に移ってしまって発言の機会を失うことも多い。

例えば、この英文を見てください。

**Is he speak Japanese?**

これは文法的に間違いです。

しかし、通じます。

「彼は日本語が話せますか？」と皆さんも訳せたはずです。

このように、間違えても通じる範囲では気にする必要は全くありませんし、こういったものは英文に触れる経験とともに自然と修正されていきます。

間違いは多くが自然と解決します。本書を3周繰り返すことをおすすめしているのは、間違えることを前提にしているからです。先に進めることが大切だからです。先に進めて、新しいコア英文法の知識が増えることで、理解できなかったものが理解できることがあります。1つの知識が色んな知識にもつながっているのが英文法だからです。

## Q.6

**文型と品詞はどう考えても学習価値がないように思えるのですが。**

文型と品詞は、英文法の中で最も嫌われる単元ではないでしょうか。あるいは全く無視されている存在かもしれません。

僕も実際そうでした。

しかし、文型と品詞は肝なのです。必ず役立ちます。

もちろん実際の英会話の場面になるとこんなことは考えていません。今自分が話しているのは何文型で、どんな品詞を使っているかなんてのは考えたこともありません。

ですが、机上の学習においては重要なんです。

理屈で考え、定着させることで、いずれ無意識の状態です使えるようになります。感覚だけで覚えたものは適当にしかアウトプットできません。

例えば、形容詞の働きを理解するだけで、不定詞、分詞、関係詞と全ての単元につながります。不定詞、分詞、関係詞が難しいのはそもそも形容詞の働きを理解できていないからです。1つの品詞が色々な文法知識に繋がっていくことを本書でも発見できるかと思います。

## Q.7

**本書の知識をどうアウトプットに繋げていけばいいですか？**

知識は得たからといって自動的に運用力にはなりません。コア英文法はアウトプットするために厳選したものですから、常に意識していただきたい3つのポイントを挙げておきます。

## ● 英文法の使用目的を考える

各Dayを学習するにあたり、常に大切にしていきたいのは、なぜこの文法（表現）をここで用いるのか、使用目的です。そうすることで、学習者の皆さんがそれぞれの英語を使用するシーンに合わせたカスタマイズができるようになります。

## ● 例文をアウトプットに活用する

各Dayにはコア英文法の使い方をイメージしていただくために豊富に例文を用意していますが、いずれもそのまま使用できる自然な英文ばかりです。そこで、例文は基本的に「日本語」→「英語」になっていますので、日本語を目にした瞬間に、「自分だったらこう話すかな？」と、英語で考えてから本書の英文をチェックするようにしてください。流れ作業的に確認するよりもはるかに学習効果がUPします。

## ● 例文のポイントを自分で説明する

各Dayでは主要な例文、クイズ、違いチェックの例文比較では、ポイント解説をしています。それを皆さんの言葉でブツブツと説明してみましょう。理想は誰か他の人に説明を聞いてもらうことです。自分の言葉で説明できないものは定着して使える知識になっていませんから最終的に復習の仕上げとしてぜひやってみましょう。

## Q.8

### オススの復習方法は？

まずQ.7のことを2周、3周するのが一番の復習方法です。

また演習問題に使用した英文と日本語は音声ダウンロードできますので、日本語を聞いて英語が発信できるか、あるいは英語を聞いて

スムーズに何を話しているのか英語のまま理解できるのかを試してみ  
ましょう。

演習に用いている英文は全て実用的なものばかりですので、復習と  
して覚えてしまうまでフルに活用する学習効果はとても高いです。



## 音声ダウンロード方法

付属音声（MP3ファイル形式）をベレ出版ホームページより無料でダウンロードできます。

- 1 パソコンのウェブブラウザを立ち上げて「ベレ出版」ホームページ（[www.beret.co.jp](http://www.beret.co.jp)）にアクセスします。
- 2 「ベレ出版」ホームページ内の検索欄から、『[Mr. Evineの英語塾 コア英文法](#)』の詳細ページへ。
- 3 「音声ダウンロード」をクリック。
- 4 8ケタのダウンロードコードを入力しダウンロードを開始します。  
ダウンロードコード：
- 5 パソコンやMP3音声対応のプレーヤーに転送して、再生します。

### お願いと注意点

- ・ デジタル・オーディオ、スマートフォンへの転送・再生方法など詳しい操作方法については小社では対応しておりません。製品付属の取り扱い説明書、もしくは製造元へお問い合わせください。
- ・ 音声は本書籍をお買い上げくださった方へのサービスとして無料でご提供させていただいております。様々な理由により、やむを得なくサービスを終了することがありますことをご了承ください。



# CHAPTER 1

## 時制と助動詞を押さえ 「キモチ」を伝える 表現を学ぶ

実は「時制」は、単純に「時」だけを示すわけではありません。「時」の感覚はもちろんですが、話し手の感覚・気持ちによって動詞を変化させるのが英語の時制です。本書では、応用度の高い10パターンの時制の表現方法を学びます。

また、時制とともに、重要なものが助動詞です。特定の場面における状況や気持ちを表す微妙な意味合いは、助動詞がなければ伝えることはできません。助動詞を使えば、動詞本来の意味に、話し手の主観的なニュアンスを加えることができます。

- Day01** 現在の表現 — 現在形と現在進行形 18
- Day02** 過去の表現 — 過去形と過去進行形 26
- Day03** 未来の表現① be going to と be -ing 34
- Day04** 未来の表現② 現在形と助動詞will 42
- Day05** 過去形と現在完了形 52
- Day06** 完了形と進行形 60
- SHUFFLEクイズ 1 (Day01～06)** 68
- Day07** 助動詞の基本用法 70
- Day08** 可能性を表す助動詞、助動詞＋完了形 82
- SHUFFLEクイズ 2 (Day07～08)** 92



# Day 01

## 現在の表現 — 現在形と現在進行形



他動詞 check (～をチェックする)

英語の時制は、「時」を軸に、場面ごとに話し手（書き手）の「気持ち」や「状態」を表現する動詞の形です。今回は、「現在のこと」を表現する現在形と現在進行形の自然な使い分けの話です。

日本人のよくある **NG** 発信！

【習慣として】

僕は毎日Eメールをチェックしている。

**I'm checking my email every day.**

「～している」＝現在進行形「am checking」とは限りません。この場面のように「日々の習慣」を相手に伝える場合はシンプルに「現在形」checkを用いるのが自然です。

**I check my email every day.**

現在形と現在進行形の区別は簡単なようで、いざ使っていて話そうとすると意外と難しいものです。両者の違いでまずは押さえておくべきコアニュアンスを Day 01 では明確にします。

1回目	□	月	□	日
2回目	□	月	□	日
3回目	□	月	□	日

## 動作動詞と状態動詞

時制は「動詞の形」パターンでもありますが、大切なのが「動作動詞」と「状態動詞」の区別です。今回の現在形と現在進行形に限らず、今後も時制を学習する上で重要な区別になります。

### ● 動作動詞と状態動詞

動作動詞	(動き・変化・出来事など) 完了する動作を表す
	eat (～を食べる)、make (～を作る)、write (～を書く)、read (～を読む)、work (働く)、happen ([出来事が] 起こる) など
状態動詞	(感情、感覚、所有など) 継続的な状態を表す
	be (～だ、～にいる)、feel (～を感じる)、have (～を持っている)、know (～を知っている)、like (～を好む)、look (～に見える)、see (～が見える)、think (～を思う)、want (～が欲しい) など

eatのような身体的な動きを示す動詞が「動作動詞」、likeのような心の動きやhaveのような継続ニュアンスが含まれる動詞を「状態動詞」と呼びます。これらの動詞の違いが時制の区別にも影響します。